

第 25 期日本学術会議健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同
少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会 第 2 回議事録【概要版】

開催日時：2021 年 1 月 24 日（日） 14:00～16:00

場所：ビデオ会議

出席者：和氣、荒井、小松、西村（正）、西村（ユ）、萱間、新福、永瀬、山田、山川（書記）

欠席者：寶金、森山（敬称略、名簿順）

【資料】

- 0 【次第】第 25 期少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会 第 2 回
- 1 第 1 回分科会議事録【概要版】
- 2 第 1 回分科会議事録【詳細版】
- 3 第 25 期「少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会」の方針と今後の活動（案）
※第 1 回会議意見より
- 4 公開シンポジウム（案）「With/After コロナにおけるケア・介護崩壊を防ぐケアサイエンスの取り組み」の開催について
- 5 共有画面で分科会名簿

会議に先立ち、資料 5 に基づき、委員の自己紹介があった。

前回の議事録【概要版】（資料 1）にそって議事録の確認が行われた。

新型コロナウイルス感染症の分科会と協力していくこと、及び本分科会は分野横断的に活動を展開していくことが確認された。

議事

- （1）シンポジウムの企画について/ 次年度の活動予定について

資料 1、2、3、4 に沿って意見交換がなされた。

ケアサイエンスの特徴と方針について、まずは本分科会で発信する「ケアサイエンス」という概念を共有していく必要性を確認した。その上で、ケアサイエンスの核である哲学について、万人にわかるように、平易な言葉で説明していくものであるということが伝えられた。学術的なものに限らず、社会への貢献という側面もあり、建築や経済の分野など超領域の新しい学問分野であることを強調することの重要性を確認した。

シンポジウムで取り上げる長期的課題と短期的課題については、短期的課題から長期的課題につながるように継続的に今後の第 2 回、3 回と続くシンポジウムのテーマを議論していく方針であることの委員の共通認識を得た。また、シンポジウム開催にあたっての課題に

ついて、運営資金についての継続的な安定性の担保の必要性が伝えられた。

公開シンポジウムの具体的内容について、まずテーマの検討がなされた。本分科会で提言する「ケア」は社会的に俯瞰したものとして大きな概念であると考え、資料4にあるような介護が前面に出るものよりも、ケアということを強調できたほうが良いのではないかと。今回のコロナ禍において、メンタルヘルス支援ということも大きな課題となっている。例えばメンタルヘルスについて、支援が必要な人のスクリーニングをAIなどで実施して、個別の深い支援につながるという形での構造化のところをケアサイエンスとして方法論を提案し、個別の支援内容は脳と心の分科会などのようにほかの分科会で追究するという形が良いのではないかとということが伝えられた。また、資料4にあるように「ケア共同社会」という言葉はイメージしにくい言葉であるので、多文化地域共生社会の構築、としつつ、シンポジウムの中でケア共同社会、ケアリングコミュニティという言葉の概念を提案していくことも重要出ることが伝えられた。

その他に、建築学、経済学、周産期、小児発達の観点などからもケアリングコミュニティの構築の必要性や課題などが話し合われた。

上記の議論より本分科会でのキーワードは「ケア」であることが確認され、第1回のシンポジウムでは、ケアサイエンスという言葉について、小松委員の説明を受け、一般市民向けにそれぞれの登壇者の発表の中に含めるということが確認された。

第1回公開シンポジウムのスケジュールや運用については、一般の人たち向けであれば2時間が適切であるということで、2時間で準備することが確認された。シンポジウム自体はライブで行い、YouTubeなどのオンデマンドでの配信も行うことが広く周知するためには良いことが伝えられた。またシンポジウムは各新聞社やメディアにも広報することが確認された。

第1回公開シンポジウムテーマ

「With/After コロナ時代におけるケアの課題と新たな取り組み」

今後の予定としては、

分科会終了後1週間程度を目途に第1回シンポジウム企画書の確定と日程調整をする。